

次回特別展予告！

大黒屋光太夫は、ロシアに漂流し 10 年の歳月を経て日本に帰国したことで有名な人物です。

光太夫が帰国した事件は「ラクスマンの来航」と呼ばれ、幕末の黒船来航の最初の事件として教科書にも取り上げられています。しかし、光太夫が帰国したことで、日本とロシアがはじめて公式に会談の場をもったということはあまり知られていません。

開館 1 周年となる次回の特別展では、ラクスマンの来航とはじめての日露会談に焦点をあてていきたいと思ひます。北海道に残る資料が津軽海峡を渡って鈴鹿にやってきます。是非ご覧ください！

会 期	平成 18 年 10 月 7 日 (土) ~ 12 月 10 日 (日)
	・ 開館 10 : 00 / 閉館 16 : 00
	・ 月・第 3 火曜日 (祝日の場合は翌日)、金曜日は休館します。
会 場	大黒屋光太夫記念館 (三重県鈴鹿市若松中一丁目 1-8) 展示室
入場料	無料
主 催	鈴鹿市
協 力	北海道立文書館 北海道大学附属図書館北方資料室 函館市中央図書館
後 援	三重県博物館協会 ほか

記念館のご紹介

当館は、昨年 11 月に開館した鈴鹿市の施設です。多くの市民に大黒屋光太夫について興味を持っていただき、さまざまな視点から大黒屋光太夫について学んでいただくために、常設展は行わず、特別展や企画展を行っています。また、大黒屋光太夫に関連する資料の収集につとめ、調査・保存を行っています。

♪がんばってます！

記念館では伊藤・木下が、笑顔 😊 で来館者の対応をしています。展示解説はまだまだ初心者マークですが、ご希望の方はお気軽にお声を掛けてください！。

♪ご利用案内

- 入館料：無料 ●開館時間：10 : 00 ~ 16 : 00
- 休館日：月曜日・第 3 火曜日 (祝祭日の場合は翌日)、金曜日、年末年始
(詳しくはホームページのカレンダーをご覧ください)
- その他：ユニバーサルデザイン適合施設 (車椅子はありませんが、お体が不自由な方はお手伝いします。)

大黒屋光太夫 記念館だより



写真：レセップスの旅行日録 (挿絵) / 鈴鹿市

目次

特集「知っておどろき！大黒屋光太夫」

☆ 記念館ニュース ☆ 記念館のご紹介 ☆ 次回特別展の予告



発 行：鈴 鹿 市

問 合 先：大黒屋光太夫記念館

三重県鈴鹿市若松中一丁目 1-8

059-385-3797 (Fax 兼用)

ホームページ <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu/>

知っておどろき！大黒屋光太夫

大黒屋光太夫記念館では 2006 年 7 月 1 日から「知っておどろき！大黒屋光太夫」展をおこなっています。4 回目の展示となる今回の企画展では、小中学生にはちょっとむずかしい大黒屋光太夫の一生をできるだけ簡単な言葉で解説しています。

大人のかたも、小中学生も、鈴鹿のむかしのこと、大先輩の光太夫たちのこと、ちょっと詳しくなってみませんか？

展示内容

光太夫、漂流する

江戸時代の白子は、紀州徳川家の領地でした。白子は紀州藩の荷物を運び出す港として整備され、伊勢商人たちも利用するようになってとても栄えました。

電車もトラックもなかった江戸時代には、船が物流の主役だったのです！光太夫は、白子に籍のある神昌丸という船の船頭でした。神昌丸は、小学校の体育館ほどある大きな船でした。



伊勢参宮名所図会 (白子)

日本に帰りたい

江戸に向かった神昌丸は、途中で遭難して、アリューシャン列島の島まで流されてしまいました。光太夫たちは、その島でロシア人との交流を通してロシア語を覚えました。その後、カムチャッカ半島・オホーツク・イルクーツクとロシア本土を移動しましたが、日本に帰してはもらえませんでした。光太夫は、ロシアの都ペテルブルグまで行って、ロシアの皇帝に直接日本に帰してくれるようお願いしました。

ロシアの皇帝はエカテリーナ 2 世といました。



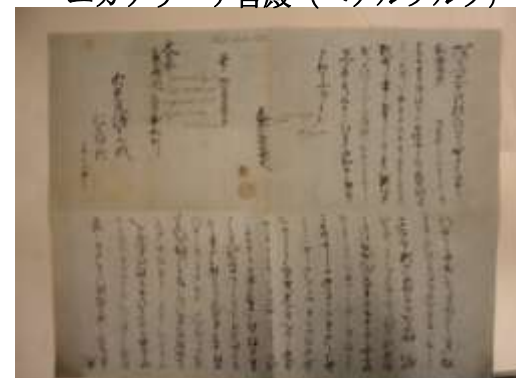
レセップス旅行日録 (カムチャッカ)

ロシアでの光太夫

エカテリーナ 2 世によって帰国を許された光太夫は、ロシアの皇太子や貴族、政府のえらい役人などからとても大切にされ、すぐにペテルブルグの人気ものになりました。貴族のパーティによべられたり、ピクニックに行ったり、学校や工場を見学したり・・・光太夫はいろいろな場所を訪れ、いろいろな事を経験しました。様々な身分の人、いろいろな出身地の人がつぎつぎと集まり、光太夫は、たくさんロシア人と友だちになりました。こうして、光太夫は、友だちのロシア人からロシアやヨーロッパについてたくさん新しい知識を吸収していったのです。



エカテリーナ宮殿 (ペテルブルグ)



日本に宛てた光太夫の手紙

10 年ぶりの日本

光太夫は、10 年ぶりに日本に帰ることができました。北海道で日本に引き渡された光太夫は、江戸で役人から取り調べを受けた後、11 代将軍・徳川家斉から質問を受けました。また、番町御薬園（靖国神社あたり）に家を与えられ、月々 3 両のお給料をもらって江戸で暮らすように言われました。江戸での光太夫は、大槻玄沢主催の新年会（芝蘭堂新元会）をはじめ、大名や蘭学者などに度々招待されてロシアの話をしたり、ロシア語を教えたりしました。



石井研堂「日本漂流譚」挿絵 (江戸城吹上) 龍光寺蔵

鈴鹿に帰る

光太夫と磯吉は、ふるさとでくらすことはできませんでしたが、一度だけ里がえりをしています。白子を出発してロシアに漂流してから 16 年後に磯吉が、20 年後に光太夫が、帰ってきました。ふたりにとって、ほんとうに久しぶりに見ることができたふるさとの風景でした。

実は、光太夫が鈴鹿に里がえりしていたことは、最近までわかっていませんでした。若松で古文書が発見されてはじめてわかったのです。



芝蘭堂新元会図 (江戸 芝蘭堂)

記念館ニュース

- ◎ 記念館の入館者が開館以来 **7000 人** を超えました！
- ◎ 企画展「光太夫の里がえり」が無事終了しました。2000 人を超える方にご来館いただきました。ありがとうございました。今回の展示では、小学校や公民館・歴史サークルなどのご利用も目立ってきました。施設の規模は小さいですが、団体の方々にもご満足いただけるよう頑張ります。(2006.6.29)
- ◎ 三重県内の個人の方から、大黒屋光太夫が 71 歳の時の墨書「ナン シャン シュ (南山寿)」が寄託されました。現在開催中の「知っておどろき！大黒屋光太夫」に展示中ですので、ぜひ御覧下さい。
- ◎ ロシア文字で自分の名前を書いて、こうだゆう君シールをもらおう！ 夏休みを前にして、ますます大人気のこうだゆう君シール。小中学生の皆さん、ぜひ挑戦してみてください。夏休みには、こうだゆう君クイズも登場します！



企画展「光太夫の里がえり」の展示風景